

立山連峰に残る氷河のあと

大規模な氷河で大陸が覆われていた時代を氷河時代といいます。南極やグリーンランドが氷河で覆われている現在も氷河時代であると考えられています。ヨーロッパのアルプス地方や北アメリカロッキー山脈には、みごとな山岳氷河が発達しています（図1）。近年、

立山や剣岳で氷河が発見されて話題になっていますが、立山連峰には最終氷期の氷河によってできた地形があります。ミクリガ池から立山を眺めると、雄山と大汝山の間の斜面に、アイスクリームをスプーンですくったあのような大きな窪みがあります（図2）。これはカール（圏谷）とよばれ、今から約3～1万年前の氷河によって山が削られた地形で、「立山の山崎圏谷」として国の天然記念物に指定されています。カールの底には、氷河がゆっくりと流れ下る時に山を削ってできた土砂や岩が堤防のように堆積した「モレーン」が発達することがあります。薬師岳の東斜面にあるカールにはS字状に曲がったモレーンが観察できます（図3）。薬師岳の南方にある祖父岳や鷲羽岳からは、黒部五郎岳のみごとなカールを眺めることができます（図4）。黒部五郎岳のカールの壁には、全体的に丸く羊の背中のような形をした岩があります（図5）。これは羊背岩とよばれ、岩壁が氷河によって磨かれてできたものです。

羊背岩を横から見ると、上流側はゆるく下流側は急な斜面となり、表面には氷河が削った線状の傷跡である「氷河削痕」が観察できる場合があります。羊背岩の形や氷河削痕を調べると、氷河が流れた方向を推定することができます。立山連峰には、この他にも氷河によってできた地形が多くあります。山を登って、カールやモレーンを見つけたら、昔、そこに大きな氷河が流れていた姿を想像してみましよう。

（藤田将人）



図1 ゴルナー氷河（スイス）



図2 立山の山崎圏谷

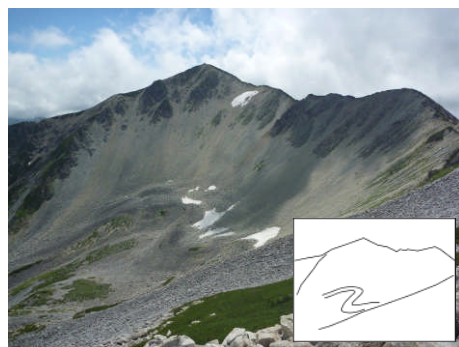


図3 薬師岳のカールにあるS字モレーン

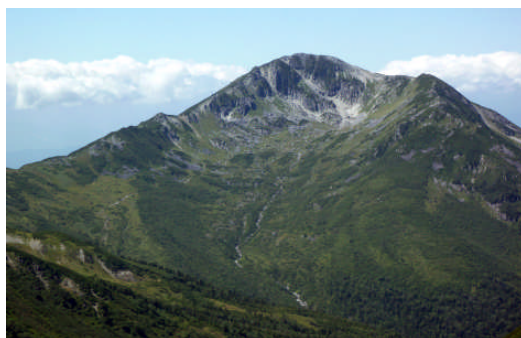


図4 黒部五郎岳のカール（鷲羽岳より）



図5 黒部五郎岳の羊背岩